

たより

ユッカの会会報 第16号 平成16年12月11日(土)発行
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター 12階
かながわボランティアセンター(情報コーナー)内 ユッカの会代表 沼波万里子

益々明るく健やかに

沼波 万里子

今年もあと僅かとなりました。

新しい年を迎えるにあたり、何とも心の晴れない年末でございます。

アテネ、オリンピックでのメダルラッシュにわたしたのも東の隅、稀にみる猛暑がようやく納まったと思う間もなく次々と台風が襲来、それも今までに類をみない程の大型22号、最強23号、それに伴ない土砂崩れ、大洪水の惨状は目を覆うものがあり、そうした災害の復興もすすまない中、新潟県を襲った大地震は正に阪神大震災に等しい激しいものでした。

豪雪地帯であるだけに今後の見通しも立っていない現状には心が痛みます。被害にあわれた方々の事を思いますと、平穩に年越しを迎えられる幸せを思わずにいられません。

人生には必ず波があり、良い時と悪い時は交互に訪れてまいります。

悪い時こそ希望を捨てずに頑張っていたきたいと切に思います。

ひと夜荒れなき倒されしコスモスが

首をもたげて花咲かせみきイラクの情勢も気になりますが、国内の身近なところでも暗いニュースが多過ぎます。たった一つしかない命をどうか大切にしてください。

人の命の尊さは、かつて戦乱の中国から引き揚げてきた私自身も身をもって体験しております。

かく申します私も今はすっかり高齢となり、最近とみに健康を害して皆様と親しくお目にかかる折もなく過ぎております事を本当に申し訳なく存じます。

ユッカの会の皆様のお元気な様子をいつも写真で拝見致し大変心強く嬉しく思っております。

新しい年に向かって益々明るく

健やかなご活躍、交流を祈つ

て止みません。(ユッカの会代表)



初めての北京

川瀬 肇



初めて中国に行ったのは大学3年の夏休みでした。夏休みに大学の語学研修に参加したのです。初めての海外、しかも1ヶ月ということで最初は不安でした。

北京に着いて、最初の食事のことは今でも鮮明に覚えています。私と後輩5人で学校の近くの食堂に行きましたが、言葉が通じてくれないのです。「お茶」「ご飯」って中国語で何って言うんだっけ？ 私のつたない中国語がわからないので、ウエイトレスは笑いながらほかのウエイトレスを何人も連れてきて、結局4、5人集まってきてしまいました。周りのお客さんからも何かあったのかとじろ見られるし、恥ずかしかった。最後は筆談をして、やっと注文ができた始末。2年半も何を勉強してたんだ、と本当に恥ずかしく、そして悔しくなりました。

部屋に帰ってすぐに、辞書を引いたのは言うまでもありません。いまから考えてみれば、そのときに「もっとまじめに中国語を勉強しよう」と強く思ったのだと思います。言葉が通じないということは、本当に歯がゆいものです。それはいまだに思います。でも、その分



通じたときの嬉しさはひとしおでした。

それからというもの、間違いを恐れず、積極的に街に出て、できるだけ多く中国語を使うようになりました。言葉が通じず、バスの行き先が違うことに気づかずに乗ってしまったり、食堂で持ち帰りをしたかったのに、言葉が通じず、仕方なくその場で食べたりと、いろいろな失敗もありました。

その年、北京での最後の失敗は、帰国のときの北京空港でした。出国窓口に並んでいて、自分の順番が来たとき、用意していた出国カードがなくなっていることに気づいたのです。慌てて探しましたが見つからず、仕方なくその場で書くことになりました。ところが、今度はペンが見つかりません。私が中国語で「没有圆珠笔」(ボールペンがない)と言うと、出国係官は、「鉛筆でもいい」と言いました。私が「铅笔也没有」と言うと、係官は「そういう時は「没有什么笔」と言うんだ、しっかり勉強しろ」と言いました。係官にからかわれているのはわかり、自分でもおかしくなって、最後は笑ってしまいました。私は係官にお礼を言って飛行機に乗りました。

もうすでに10年近く経ちましたが、この初めて北京で過ごした1ヶ月が、本当に中国を好きになるきっかけだったのかもしれない。(戸塚教室・ボランティア)

日本と中国の生活習慣のの違い

内田 智子



私は24年間日本で生活して、「入郷随俗」(日本語で言うと、郷に入りては郷に従え、ということです)少し

ずつ日本の習慣になれてきました。でもわからない事がまだ沢山あります。

例えば食生活の習慣の事です。ある日私は大根を一日干して、ちよつと唐辛子を入れ、しょうゆで漬け、とてもおいしいと思つて、中国人の友達の家に行く時、少し持って行きました。「大根の漬物です。どうぞ味をみて下さい」と言つて渡しました。その友達は、何も言わずに台所に持って行きました。その顔を見ると、私はすぐ失敗したと感じました。その時私は長い間の中国の習慣を思い出しました。

中国では漬物は、生活が貧乏で、食べ物が無い時、漬物を食べるしかないのです。お客さんが来た時は、炒め物を沢山作つて出しますが、漬物はぜったい出さないのです。中国では食堂でも、宴会の時でも漬物は出さないのです。人々は漬物はいいものではないと思つたのです。

思い出しますと私が日本に来て、乍ら一年ぐらい経つたときでした。パートで働いていた会社で、昼食の時、毎日誰かが、おい

しい物を持ってきます。私は甘い物が大好きで、それが毎日楽しみで、私もいろんな中華の物を作って、いつも多めに持って行きました。皆さんと一緒に食べるのはとても楽しいことでした。

ある日誰かが、旅行先のお土産にキュウリの漬物を持って来ました。その時、私はびっくりしました。初めて見る筈でした。なんでお土産が漬物なのでしょう。普通は甘いものでしょう。ケチな人なのかと、こころの中では不思議な気持ちでした。家に帰つて、早速母に聞いて、やっと分かりました。母は「日本人は、とても漬物が好きですよ。種類は沢山あるし、味は中国の漬物よりもうすく、さっぱりしていて、とてもおいしいですから、白い御飯とあうのでしょう。日本の食卓に欠かせないのですよ」と教えてくれました。あれから、私は毎日炒めたものだけでなく、サラダとか漬物を少しずつ作つて、家族で毎日食べるようになりました。そして、いつかみんな漬物が好きになりました。



今年の9月、ある中国残留孤児の63才の男性が病気のため亡くなりました。私はお通夜とお葬式に行きました。

そこでご家族の皆さんの意見が合わず、喧嘩ばかりして、なかなかおさまらない場

面に出会いました。

原因は習慣の違いでした。奥さんは中国の習慣で、旦那さんの写真と骨を家に持ち帰らないで、そのままお寺にあずかってもらい、あとでお墓をかうつもりです。息子さん達は毎日会社でともに仕事をしている日本人の友達がいるので、日本の習慣に適応するのが早く、友達の皆さんの話を聞いて、せめてお父さんの写真だけでも持ち帰って、家中でお線香をあげるのがよいと思うと言いました。

お母さんの方がなかなかむずかしくて、結構相談の時間がかかりました。その後で聞いたことですが、誰かがその家に行き、お線香をあげたい時はお母さんが写真を出して、その方が線香をあげたら、すぐ写真をかたづけたということです。こういう事は私は他の中国人の家でも見たことがあります。

中国といっても広いですから、ひとことではいえないし、地方によっても習慣は違うと思いますが、私が知っている限りでは、中国人の家庭ではお仏壇は置かないし、家中でお線香をあげる習慣はありません。日本にいる中国人の年輩の人は日本の習慣で理解できないことがまだまだ沢山あると、つくづく思いました。2004年10月29日

(横浜教室・学習者)

スピーチコンテストの

こと

ハンニ(中学2年)



私は、去年の11月から、ユッカの会のお世話になっています。渡辺先生から理科や数学などを、冨崎先生から社会科の歴史を教えてもらっています。

6月に「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 区審査会」に学校のすいせんを受けて、二人の代表の一人として出場しました。菜目して、まだ目が残いのですが、クラスの友達たちの協方と励ましを受けて、こんな素晴らしい機会を得たことをとても幸いと感っております。

先生方のおすすめもあり、スピーチの内容を「たより」にのせていただくことにしました。次の文書はコンテストの時、私がスピーチをした内容です。



『国際平和の最初の一步』

私はミャンマーから来ました。日本に来てからそろそろ8ヶ月になります。日本に来るのが突然のことで、1週間ぐらいでじゅんぴをして来たから、日本語の勉強も全然できませんでした。初めての登校日はみんなの前で自己紹介をしました。「ミャンマーから来ました」と言うと、どこの国か、だれも分からなかったです。その時から、私は自分の行動を他人の立場から考えて行動することができるよ



うになりました。

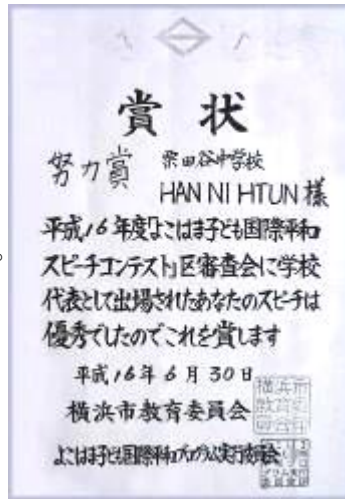
最初は会話も少なかったし、あまり通じなかったのでコミュニケーションが出来ませんでした。しかし、周囲の友達と先生たちのやさしさに日本語の会話がだんだんわかるようになりました。友達もいっぱいできて、毎日学

校へ行くことが楽しくなりました。学校の休み時間にも母国のことを友達と話したり、また友達からも分からない日本のことを聞いて、楽しい時間が増えてきました。

そこで、私が思いついたのはミャンマーと日本、二つの国だけでも人の考えが違うので、世界中たくさんの国になると、もっと違いがあってすごく大変だということです。

私は今まだ中学生ですから、平和のために世界中まで広く活動することはできないけど、自分のクラスとか、周りからやれることをまず始めたいと思います。やれる事を考えて見ると、クラスみんなが理解しあって一人一人が今学生の時、もっともできる勉強をいっしょうけんめいやると国際平和の最初の一歩を始めることになると思います。

実際には、教科書の勉強だけでなく、社会の知識も学ぶ必要があります。日本が発展途上国へ援助をしているのを見て、私も大人になったらそういう仕事にかかわってみ



たいと思います。

平和のために世界中の皆が協力しあっていけば、一人一人の力が小さくてもそれが集まれば大きな力になり、どんな大きな問題でも解決していくことが出来るでしょう……。



5ヶ月たって、もう一度読んでみますと、不十分な所がいっぱいあります。でも、今後も平和のことに對してもっと考えて、機会があればまた発表してみたいと思っています。

(横浜教室・学習者)

私の好きな季節…春

黄 淼淼



日本に来てまた一つの秋を迎えた。秋は収穫の季節とも呼ばれている。でも涼しくなり落ち葉がだんだん増えてくると、なんとなく寂しく感じる。この季節が来ると故郷のことをよく思い出す。向こうはもうすぐ厳しい冬がやって来て雪の世界になってしまいうだろう。寒い冬に耐えてやがて待ち遠しい春がやってくる。私はやはり春が好きだ。

春になると重いコート



を脱いで身も心も
軽くなる。天気
の良い日に、公園に
行って太陽の陽射しを
浴びながら、土と緑の香りを胸いっぱい
吸い込んで、草花達の芽が出てくるのを見なが
ら、暖かい風に吹かれている時が何よりも
気持ちが良い。

暖かい太陽の下で、花たちはまるで恥ずか
しがり屋の少女みたいに、少しずつ顔を出し
て外の世界を覗いている。一旦出てきたら、そ
の美しさは誰にも負けないように咲いている。

日本といえば桜が一番だと思う。淡いピン
クの一つ一つの花が一生懸命咲いて、その
美しく純粋な色で日本中を一色に染めて
くれる。日本人々は桜が大好きなようで、
毎年満開の時期には花見をする。家族や友
人や恋人同士が皆集まって、桜の樹の下で
気持ちよく話をしたり、笑ったり、お酒を飲
んだり、歌ったりして桜と一緒に時間を楽し
んでいる。しかし、桜の咲く期間は一週間
くらいしかない。でも、そのたった一週間の
命は、一年間の全ての方だ。その方を使
い果たして咲く姿が私達に希望と幸福を
与えてくれるのだ。だから私達の夢も努力
すれば、きっといつか桜のように、希望
の花を咲かせることができるだろう。
(横浜教室・学習者)

日本の地震

張麗



日本に来てからもう一年
たちました。日本での生活
はとても便利で、日本の町
はきれいです。そして日本語の先生はと
ても親切です。でも、日本は地震がと
ても多いので、怖く毎日とても心配
です。

この一年たくさんの地震がありました。特
に10月23日の地震は、半時間
の間に強い地震が3回あり
ました。あれは私の初めての体
験で、とても怖かったです。あ
のとき中国へ帰りたいと思
いました。今でも眠る時、と
きどき地震が起こっているよ
うに感じます。そして、た
くさんの汗がでできます。そ
のとき私は神様にお願
いし、みなを守ってください
と祈ります。<2003年9月15日
日本へ来ました>

(横浜教室・学習者)

うちの緑のベ ランダ

李振坤



去年の春、それは私が
日本に来て2、3ヶ月たっ
たばかりの頃だった。言葉も通
じないし、新しい国の文化や
習慣に慣れるまで時間がかか

る。急に孤独感に襲われる毎日だった。寂しさを追い払うために、うちのベランダで植物を植えることにした。

家の近くに新しくオープンしたコーナンというホームセンターで鉢、土、花、トマトの苗と唐辛子の種を買った。早速土に唐辛子の種を蒔いて、毎日水をかけて、芽が出るまで待っていた。花とトマトは順調に成長していたが、唐辛子はどうしても出てこなかった。「土の中に眠っているのかしら」と思いながら手入れを続けていた。2週間以上たつてやっと土に何か微妙な変化があって、唐辛子が小さい帽子をかぶって、大きく伸びをして、この世間にやってきた。私はうれしくてたまらなかつた。植物を植えた経験がない私でも、陽の光、空気と水があれば、植物が生きられるのを知っている。小さい命が目の前でだんだん大きくなるのを見ていると、勉強の疲れや生活の不愉快さが瞬く間にすつきりなくなった。

夏、唐辛子は私のひざまで成長して、トマトはずっと丈が伸び、不思議に私の背と同じ高さになった。しかし、唐辛子が虫に襲われて、葉っぱがかまれた。葉を使いたくないから、手で一つ一つの虫を取った。いつもきれいだと思っていたチョウチョウもにくくなってしまった。

背が高くても柔軟さがかけているトマトは

強風で倒れそうになった。それで、強風に対して、紐でトマトを手すりに巻きつけた。虫に襲われても、強い台風に吹かれても、植物は丈夫に生きていて、成長していった。生命力の強さを感じて、心を打たれた。

一番うれしい季節はもちろん秋である。緑の葉に赤い実を添えて、うちのベランダはよりいっそうきれいになった。自分が一年間手入れをしてできた実は、本当にどこで買ったものよりもおいしかった。

トマトと唐辛子は一年生の草本植物だから、今年それらの姿はもう見えなくなったが、新しく買ってきた花はいっぱいある。特に、実が私の誕生日のときくれたお花の蕾は、毎年私の誕生日ごろにピンクの花を咲かせてくれて、まるで「お誕生日、おめでとうございます」っていつてくれるようである。これは私にとって一番大切なものである。うちのベランダは有名な花はないけれど、私に楽しみをもたらす所だと私はずっと思っている。そしてつらかった日々にもいつも私のそばにいてくれるので、私の日本語も植物の成長とともに上達しているようだ。2004・11

(横浜教室・学習者)



私のお母さん

甲井 鈴子



今から17年前の4月7日、
中国の吉林省から日本に
来ました。家族5人、北京で
飛行機に乗りました。銀色の

飛行機が空を飛びます。機内の窓から大きな海とそこに浮かぶ島、そして山も見えます。自然はととても美しい。

3時間半ぐらいで成田空港に到着しました。成田空港は広くて、さまざまな国の飛行機があります。私は興奮して、胸がドキドキしました。何年かの夢が叶った！

日本に来てすぐ仕事をしました。毎日三線(家→籠車→バス)で、遊びはあまりできません。

ある日、休みのとき、ニュースを見ました。若い母親が可愛い娘をつれて海に乗りました。娘が叫びます。「お母さんやめて！ やめて！」しかし大きな波が母と娘を呑みこんでしまいました。

私は56年前(昭和22年)、6歳のころを思い出しました。思い出すのも辛いことです。昭和20年8月、日本の敗戦後、中国は国内戦争で長春市街地での生活は非常に危険な状態でした。域内に国民党軍がいる。域外には共産党の八路軍が包囲しています。その中で私たちは何度か死に直面した

ことがありました。

私たちは八里鋪へ行きました。八里鋪のおじいさんの家に住みました。おじいさんはお金持ちですが、私たちに食物をあまりくれません。おじいさんはお母さんに「この子はあなたの娘じゃない。早く捨てなさい」といいました。お母さんはいつも泣いていました。私たち母娘はおじいさんの家を出て、240里離れた吉林を自指して逃げて行きました。

最初は少しばかりの現金を持っていましたが、動乱の最中で物価は忽ち高騰し、そのお金は幾日もしないうちに使い果たしてしまいました。養母は私のために筆舌に尽くせない苦勞をしました。毎日私を背負って灼熱の炎天下を歩き続けました。なんとかして私に少しずつでも美味しい物を食べさせようとして、なけなしのお金で、自分には食べずに、私に食べ物を買ってくれました。

ある日、養母は、最もお気に入り、長い間肌身離さず大切に持っていた小さな腕時計を売って、一抱えもある程の札束を手に入れました。私たち母娘はこれで美味しいものが幾らでも買えると大喜びをしましたが、道端



の物売りや商人たちは避難民の足もとを見透かしていますので、あれだけ多いお金で買ったのはうどん粉で作った小さな焼き餅1個だけでした。この時も養母は自分は食わず、全部私に食べさせてくれました。

この後、私たち母娘は路で乞食を始めました。両手空空、夏の太陽が照りつけ、長い間お風呂にも入らないので、身体には虫がわいてかゆくてたまらない。着る物は一枚だけで、破れました。顔は汗と埃で花顔になりました。道端には子どもや老人の横死体もありました。私たち母娘は樹の皮を食べたり、草の根を食べたり、川の水を飲んだりしました。足には水泡ができて、歩くと痛みます。樹の下で休み、樹の下に寝て、苦しくて悲しい思いをして、九死一生、やっと苦林市にたどりつきました。

養母への感謝の気持ちには、半世紀以上が過ぎた今でもはっきりと私の胸の奥深くに残っています。嗚呼、お母さん、刘风林！愛しています！愛しています！

(横浜教室・学習者)

楽しい一日

甲井 雷子

10月31日に秋のバスハイクに参加しました。とても楽しか



ったです。前日からの雨が8時にはあがり、い



い天気でした。日差しが強くないし、ときどき涼しい風が吹いて、秋のさわやかな感じがいっぱいでした。

午前8時30分、私と母と娘と息子と4人は本郷台駅に着きました。駅前にユッカの会の皆さんが参加者たちを待っていました。ユッカの会の皆さんも参加者たちもお互いに親しく挨拶を交わしました。

参加者120名、A、B、Cのグループに分かれて、3台のバスで定刻9時に城ヶ島散策と三浦半島へみかん狩りに出発しました。

車内では近くの人同士とおしゃべりしたり、外の景色は花が咲いていて、海側を見るとまぶしい富士山も見え、とても和やかな雰囲気でした。

10時過ぎに城ヶ島に到着しました。そこで一旦バスを降りて、グループごとに島の甲を散策しました。周辺の景色も全部見ました。子どもたちは色とりどりの貝殻を集めて遊びました。私はそこに立って友人と写真をお互いに撮りました。歩きながら友人と話したり、と

でも楽しい気分でした。

昼には「しぶき亭」で日本料理のお刺身定食を食べました。とてもおいしかったです。



そして、皆さんそれぞれにお土産を買って、再びバスでみかん狩りをする場所「丸太屋」へ向かいました。

そして、今まで見たこともないみかん畑を見ました。皆さんはそこであちこちのみかんを取り、実を試食しました。もらったビニール袋はいっぱいのみかんになりました。それをお土産にしました。私は近くにあった野菜スタンドで大根も買いました。

帰りの道、長浜の砂浜へ行きました。私と友達と一緒に海を見てすごく高い岩山に行き、とても伸び伸びとして気持ちよくなりました。私たちは周囲の風景を觀賞したり、遊んだり、思い切りとても幸せでした。私は参加してとてもよかったと思います。

(横浜教室・学習者)

来日後の感想

王 微



私は4年前に日本へ来ました。いろいろの感想があります。

日本へ来る前に、国の人

は「日本の接客態度は世界一番です」と言いました。私は来日して実感しました。

たくさんの日本人は親切で、正しくマナーを守っています。

日本はごみを分類し、物をリサイクルして自然保護に努力しています。

私は日本のお菓子と菓子パッキングが大好きです。精巧でとてもきれいだと思います。

日本は暮らしやすいです。交通や買物がとても便利です。空気がきれいです。

私は日本語が下手ですので、がんばっています。日本語が上手になったとき、日本の生活はもっと楽しくなると思います。

(横浜教室・学習者)

上高地の旅行

中山 瑛子

11月1日に、帰国者センターで勉強する帰国者達は、先生と長野県の有名な観光地の上高地に1泊2日旅行

に行きました。朝早く出発して、バスで静岡県、山梨県を経て、途中でいろいろな所を見ました。紅葉がきれいだったし、富士山もはっきり見えました。

夕方、目的地の白骨温泉に着きました。泊る「新宅旅館」で宴会が行われました。みんな



なは食べたり、飲んだり、歌を歌ったりしてと



でも楽しかったです。夜、寝る前、朝の3回も温泉に入って、気持ちよく旅の疲れが解消しました。

翌日、上高地に行きました。道が狭くて急坂で、トンネルがありました。私達はバスを乗り換えなければいけませんでした。遠くに、3000メートルぐらいの日本アルプスの山々を見ると、緑の山、雪の白い山頂、青い空がきれいで、絵のようでした。

大正池から川に沿ってバスを降りて歩きました。素晴らしい自然の景色を見て、写真を撮って、40分ぐらい散歩しました。

帰る途中は、日本の国宝の松本城によって、夜、9時に家に帰りました。素晴らしい旅でした。また行きたいと思いました。

(横浜地域教室・学習者)

私の誕生日

赵 淑芹

11月18日は旧暦の10月7日で私の誕生日でした。子供達は仕事のために11月21日の日曜日に私の家に集まり、誕生祝いをしてくれました。

次女の家族4人、息子の家族4人、三女の家族3人全員が集まりました。しかし長女の家族4人は、今中国に住んでいるため来ませんでした。とても残念でした。

嫁は7千円ぐらいの大きいケーキを買ってくれました。みんなは魚や肉や野菜などいろいろな材料を買いました。12種類もの料理を作りました。

食前にケーキのローソクの火を孫達と吹き消しました。ワインで乾杯しました。写真を撮りました。にぎやかな情景に私は本当に幸せだと感じました。



(横浜地域教室・学習者)

私の養父と養母

金田 幸子

私は53才の時、中国遼寧省瀋陽市から日本に帰って来ました。毎年新年を迎える時は養父と養母がとてもなつかしいです。

養父の性格は平和、知識が豊富でやさしい人でした。養母はとてもやさしく親切な人で、おいしいものをたくさん作ってくれました。新

年には新しい洋服を私に作ってくれました。

普段は養父は私の勉強をみてくれました。養父は私が将菜国の役に立つ人になって欲しいと思っていました。

今は養父と養母が育ててくれたことをとても感謝しています。もし養父母がいなかったら私は育っていませんでした。

新年やお祭りなどでおいしいたべものを食べる時、養父母のことをなつかしく思い出します。
(横浜地域教室・学習者)

なっていた寺院ということである。戦火で焼失したが今回その再建が成り、それを機に祝賀会開催の運びとなり米国・台湾・韓国・日本等に招待状を出したのだという。

まず区役所で市長の講演があった。その要旨は「観光と産業によって遼陽市の発展を図る」というようなものであった。

遼陽市は2400年の長い歴史をもち、紀元前3世紀から17世紀中葉まで政治、経済、文化の中心であった。中国最後の王朝清の太祖(ヌルハチ)は遼陽に首都を設立し、唐代、遼代の古跡の保存に力を尽くしたという歴史がある。

祝典当日はバスに乗って会場まで行くのであるが、大変な人込みで、バスを降りて歩く。路傍には地べたに座って右や左のダンナ様とばかり、物乞いの人も多ぜいいた。

市の公式行事は3日間で終了した。

最後に、私が訪ねた会社について述べる。会社は5つの小さい会社が一つのグループとしてまとめ、集団会社として組織立っている。各会社の社長は5人とも遼寧大学出身の同級生で内4人が大学院卒、グループ長の社長が大連大学教授であり、文字通り産学提携ということであった。

同行の日本人社長は農学博士の肩書きを持ち、自社の概要、生産など、どの面で協力

中国招待旅行

土藤 健治

今年04年6月末、中国遼陽市人民政府に招待という形で家内と遼寧省に飛んだ。



成田発13時25分中国南方航空機に乗る。乗客の殆どが中国人のようであった。15時30分遼陽桃仙国際空港に着陸。空港には元神奈川県研修員の諸さんと運転手が待っていた。

今回招待の名目は遼陽広祐寺の完成祝いと経済貿易懇談会が組み込まれていたことである。もう一組の日本からの招待客は東京の某化学系有名会社社長夫妻である。

広祐寺は東北地方最初の仏教寺院で、漢代から清代までこの地方仏教の中心に



できるかを可成り上手な

英語で述べた。

私は経済に

ついては素人で何もお手伝いできないが、人的交流でお互いが良く理解し合うことで協力したいと、簡単な英語で話した。

遼陽から瀋陽まで約60kmある。長春と鴨緑江を挟んで北朝鮮の見える丹東まで足を延ばして今回の旅を閉じた。

兎に角、中国の経済にける意気込み熱意というものには驚かされる旅であった。

(横浜教室・ボランティア)

きらくな宿



星 ノブ

高校時代の先生と級友数人で、ときどき気楽な旅をしている。日帰りのときもあれば一泊のときもある。

昨年のことだが「ちょっと変わった旅館があって、私は割と気に入っているんだけど、そこに一泊するのはどうかしら」と先生がおっしゃるので、磐梯熱海のその旅館に一泊することになった。

もともとは普通の温泉旅館だったが、現在の主人がまだ若いころ、海外協力隊員として東南アジアに出かけて行き、いろいろ体験

するうちに、従来の旅館のやり方に疑問を抱くようになった。もっとお客さん本位の経



営が出せないものだろうかと考えて、改革したのだという。

「食べきれない夕食と客室に出入りするサービスを無くしてみたら、こんな低価格で気楽な宿になりました」というのがこの旅館のメッセージである。

布団敷きなどセルフサービスだが、宿泊料金が安いことはありがたいし、温泉がいい。朝食はバイキングで家庭料理がおいしい。気楽に過ごせて、私たちがすっかり気に入ってしまった。

そういうわけで今年はその旅館に二泊することになった。さいわい天気もよかったので、周辺の散策にでかけた。五百川という溪流に沿って、細長く旅館が建ち並んでいる。開湯八百年というから、かなり古い温泉地なのだ。

この五百川にちなんで菘姫伝説が伝えられている。建武のころ、京の都に住む菘姫が不治の病氣にかかった。ある夜、不動明

王が夢に現れ「都より東北方へ五百本目の川岸にある出湯に浸れば快癒疑いなし」と告げた。姫は幾多の困難を経て、ついに五百本目の川にたどりつき、そこに湧く出湯で難病を治し、京へ帰ったという。それ以来この川は五百川と呼ばれるようになった。

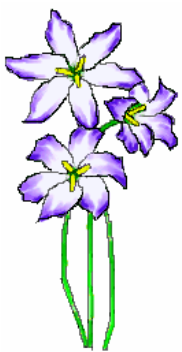
五百川の溪流は清らかな水がさらさらと流れ、散り残った川辺の紅葉が風に揺れていた。

おみやげ店が一軒もなく、温泉街はひっそりとしていた。その中に営業をやめて何年もたつような旅館が一軒あった。大きな旅館で、全盛時代はさぞ華やいで賑わったことだろう。周囲には雑木が生え、すすきが原になっている。一行の中で俳句を作る二人はその廃屋の前に立ち止まり、凝視して動かない。

唯一の観光スポットになっている「ケヤキの森」まで足をのぼす。山の斜面に樹齢300年という大欒が77本あるという。全部見渡すことはできないが、山道から見える何本かの欒は、雑木の中に王者のような姿を見せていた。春から夏の季節だったら森林浴というところだが、葉は落ちつくし、青い空に細かい梢をさらしている。木の形がはっきり見えて、こ

れもまた風情があった。

昼食を食べようとして食堂を探したがなかなか見つからなかった。しかし、やっと探しあて



たそば屋では、しっかりした二人そばを食べさせてくれた。

萩姫の病気をなおした湯は53度のあつ湯と38度のぬる湯があり、特にぬる湯はこの温泉の特徴らしい。泊るのもいいし、日帰りの入湯だけということもできる。そのときはこのきらかな宿がおすすりである。(横浜教室・ボランティア)

みかん狩り感想

福田 真子



10月31日、日曜日 天気

雨ふりです。わたしともだちはいっしょに本郷台えきまえに

8時20分につきました。9時にみなさんバスにのりました。

バスの中には先生とがくせいなど、おおぜいです。バスのまどから見たいいろいろのふうぶつが、とてもおもしろかったです。バスがどろろをはしるのははやいですね。

12時20分レストランにつきました。ひるごはんをいろいろたべました。てんぷらはおいしいですね。

それからみかんえんにいきました。みかんの木がおおいですね。みなさんとしゃしんをとりました。あるひとはみかんをたくさんもって、あるひとはおなかいっぱい食べています。

わたしはとてもうれしかったですね。おもしろかったですね。たのしかったですね。よかったですね。どうぞよろしくおねがいします。

(横浜地域教室・学習者)

城ヶ島散策と三浦半島 みかん狩り感想

小林 桜子



10月31日、朝起きたらしとしと雨が降っています。友達と私はいっしょに本郷台駅へ行きました。8時30分集合です。

おくれないように行きました。

本郷台についたら雨はやんでいました。9時ごろバスに乗りました。バスの中から見た富士山がきれいですね。

バスを降りてから海を見ました。海岸で貝がらを拾いました。紫や白や黄色やピンクなどたくさんありますね。私は貝がらを拾っていました。

昼ごはんはやさいといろいろおいしいです。

三浦半島ミカン園でミカン狩りをしました。ミカン園には樹の上にもかんがたくさんあります。とてもきれいな。友達と私はみかんの樹の前でしゃしんを撮っていました。私はみかんを9個取りました。私はとてもたのしかったですね。

どうぞよろしくおねがいします。

(横浜地域教室・学習者)

ミカン園感想

田中 桂子



朝起きたら雨が降ってしまいました。でも雨天決行です。8時30分集合です。おくれないように行きました。

私は朝4時半におきました。牛乳のみました。家から5時半に私は児玉さんの孫と一緒にいきます。横浜駅で降りました。地下鉄に乗って上大岡駅で降りました。バスに乗ります。8時20分本郷台駅まで8時半集合です。

9時にバスに乗ります。12時半に降りました。昼ごはんをたべました。たのしいです。バスに乗ります。

2時にみかん園でみかん狩りをしました。写真をとりました。ともだちとおもしろかったです。

城ヶ島で海をみました。雨はやんでいました。私はよる7時20分に家まで帰りました。うれしいです。(横浜地域教室・学習者)

10月31日旅行日記

高沢 淑子



わたしは朝4時におきました。雨が降りました。でも雨天決行です。ごはんをつくります。はやくたべました。

7時、岡さんの娘さんと車でいっしょ



よに本郷台駅にいきました。ついたら雨はや
んでいました。

城ヶ島で下車して海を見てから、昼ごはん
を食べました。2時からみかん狩りです。みな
さんはうれしいです。せんせい、また、来年旅
行よろしくおねがいします。

(横浜地域教室・学習者)

みかん狩り感想

秋山 三重子



私は朝6時に起きました。7
時に私とよめさんと2番めの
まごと長男のくるまに乗りまし
た。朝雨がふっていました。
でも雨天決行です。8時30分本郷台駅前集
合です。おくれないように行きました。私は
長途バスにのると、めまいがします。バスに乗
る前くすりをのみました。体が大丈夫でした。
本郷台についたら雨はやんでいました。

城ヶ島に行きました。海が見えました。故
郷の海はひろいです。お昼ごはんはおいし
いでした。

午後みかん園に行きました。みかんを取りま
した。みかんは酸っぱいです。私達は先生と
みなさん一緒に旅行をしました。私はとても楽
しみでした。(横浜地域教室・学習者)

伊良部島にて

加島 良子

伊良部島は、沖縄から320kmの宮古島か
ら高速船に乗り15分の南の島です。島の気
候は暖かく23℃～最高は33℃、すごしやす
い気候です。

綺麗な海とサトウキビ畑が続きます。そ
の中を、自転車で風を切って走るの是最
高です。

島の人たちは、とても親切で、のんびりして
いて温かい印象を受けました。島を訪れる
人はダイビングや、釣り、ゴルフなどを楽しん
でいます。又パイロットの訓練飛行場もあり
飛行機ファンも多いそうです。

ゴルフ場近くには、秋に日本からフィリ
ピンに渡る途中のサシバ(渡り鳥)がやってくる
のが有名で、伊良部を代表する鳥になって
います。

そんな島での1週間でしたが、若い人との
コミュニケーションには特に問題はありませ
んでしたが、年輩の方は方言が多くコミュニケー



ションが難しいこともありました。方言はまった

くの外国語です。何度も言い換え、身振り手振りで意思が通じましたが、言葉とは難しいものだと感じました。皆様も機会があれば、是非訪れてください。(戸塚教室・ボランティア)

箱根旅行

林 玉枝



7月5日にユッカの会のバス旅行がやってきました。天気はとても良くて、朝8:30の集谷時間にあわずに皆さんに待ってもらいました。すみませんでした。

バスの中で、まずみんな自己紹介をします。つぎ、中国や日本の歌が皆と一緒に歌をします。とても楽しかった。

小涌園で休けいして、おみやげの温泉玉子を買って、森の湯の温泉にゆっくり入れてうれしかった。

帰りはドシャブリの雨も降ったが、無事に横浜に帰って、すぐに温泉玉子を娘に渡して家に帰りました。とても楽しかったです。

(戸塚地域教室・学習者)

Rさんのこと

飯田 靖子

以前ユッカの会で学習し



ていたRさんは、この4月から私立と公立高校で中国語の講師として教壇に立っている。3ヶ月前程、振り替え休日だと言ってひよっこりセンターに訪ねてきてくれた。彼女は、学習曜日と同じだった私のボランティア仲間や他の学習者によく昼食を共にした「飯友」だった。

近況を聞いているうちに今の学校事情が見えてきた。まず授業中私語が多いから始まり、真面目に話を聞かない等、極めつけは講義を聴きながらお化粧をすることだ。そして男子生徒から肩を組まれたときはびっくり仰天思わず手を振り払ったという。中国では想像も出来ないことだそう。お化粧以外は今では小學校でも珍しくないらしい。真面目で優等生だった彼女はさぞかし驚き、傷ついたことだろう。「一番大事な時期に勉強する意欲が無くて日本の将来が心配です」と熱っぽく語ってくれた彼女と共に嘆き、憤慨した私だったが、己が高校時代を振り返ってみて絶句した。

半世紀以上も前のことであるが、ある先生の授業の折、あまり密やかではない話し声がか聞こえてきた。すると先生は「お弁当を食べなくても何をしてもいいが、周りの人に迷惑な

ことはしないように」と注意されたが、その言葉が終わるや否や本当にお弁当を開き食べ始めたつわものがいたし、先生が黒板に向かっていている隙を見計らい、その目の先生の印象や感想などをノートの切れ端に書いたものや、有名詩人の替え歌ならぬ即興替え詩のメモを手早く回したり、「生理衛生」の授業中聞いてきた頭蓋骨に校帽をかぶせたりした経験は90%以上のクラスメイトが持っているはずだ。さすがにお化粧を始める生徒はいなかったが、うっすら頬紅をつけてくる人はいた。でも、これは決して先生を馬鹿にしていたわけではなく、単にスリルを楽しんでいたように思う。けれど、対象になった先生を傷つけたかもしれない。当時の事を正当化するつもりは無いが、度を越えた先生に対する態度や、授業放棄はやはり良くないと思う。まして外国人である彼女には理解し難いことだっただろう。現場で彼女をサポートしてくれる人がいることを願うばかりだ。悪戯の材料になった先生の授業は忘れないし、クラス会するときなど皆で懐かしく思い出す。Rさんの生徒達もきっと中国語を勉強したことや、真面目な授業の様子は生涯脳裏に残る筈。だからめげずに自国の文化や言語を誇りを持って教えてあげて欲しいと思う。

(横浜教室・ボランティア)



ヨン様現象と日本人

平野 善子



韓国ドラマ「冬のソナタ」のペ・ヨンジュンさんが、異常なまでに中高年の女性に人気を博している。今朝もニュースやワイドショーは、来日した彼を一目見ようと成田空港に駆けつけたファン3,500人(すごい数!)の姿をあちこちで映し出していた。しかも、そこに映る女性には私より年上(多分)で、私の母よりは若い、おそらく40代~50代の女性たち。私は30代だが、なぜか私の周りにいわゆる『ヨン様ファン』は見受けられない。

なぜ? どうして? そこまで熱狂するの? 私の中には『?』マークが天量に並ぶ。でも、美は私、まだ冬ソナを見ていない。そんな私には、ファンの皆さんから「まずドラマを見てからあれこれいいなさい!」というお叱りの言葉が飛んでくるのかもしれない。

ドラマを見たら即座に、ペさん(ヨン様と呼ぶよりじっくりするのでこう呼ぶことにする)を愛し、憧れ、歓喜する「当事者気分」にはまれるのかもしれない。でも、傍から見てみると、この現象はまるで「踊る阿呆に見る阿呆」の「見る阿呆」になった気分、揶揄する気分と、ちよつとうらやましい気分が入り混じる。

日本人はびっくりするほどブームに乗りや

すい。地球全体から見れば日本人は、とても狭い土地に何千年も住み続けた民族である。その結果、好みのストライクゾーンが実は狭い範囲に固定されて、そのストライクゾーンに入ったら最後、一気に火が付く、という現象になるのかもしれない、と思う。

では、日本人のストライクゾーンとは一体なんだろう？ これは、日本人固有のくせ、とか固定観念と訳すこともできるのかもしれない。日本人は、建前が上手だといわれる。外国人は議論すること、自分の意見をちゃんと持ち、その意見をみんなの前で堂々と表現することをすばらしいと思っている。さらには「喜怒哀楽の感情をありのままに表現することに美を感じる(つまり、人前で大声で泣いたり怒ったり喜んだりすることを素晴らしいと思う)」「国民性をもつ国もある(ちなみにこれは韓国)。日本では考えられない。だって「自分の感情は人前ではぐっと抑えて笑顔で人と接する、シンの強い人」を美しいと思いませんもの。でも、これは日本の常識で世界の常識ではないのだ。そしてこんな日本人を、外国人は「建前がひどくて、本心では何を考えているのかわからない！」と見ている。私がこのことを知ったのは実は数年前である。それまでは、「外国人はほんとに自己主張が強く大人気ない！」と、とつてもとんちんかんなことを思っていたのだ。いかに自分が、「自分

が正しい、今おかれている環境の常識が正しい」と思い込んでいたかがよく分かる。

今、思うのは、「自分を外から見る目を持つこと」の大切さである。自分、自分の家、自分の会社、自分の国に頭のとっぺんからつま先までどっぷり漬かっていたのでは、本当の自分の姿や真実は見えてこない。そこから一歩出て、完全に客観的になったときに、相手を受け入れ、聞きを受け入れ、自分とは違う文化を受け容れる最初の一歩が踏み出せるのではないかと思う。そうそう、話が飛んだけれど、冬ソナが日本人にうけた理由は、感情をストレートに出す韓国のドラマに、普段感情を抑える日本人が「感情を外に出す疑似体験ができた」スッキリ感があったからだ、という解説を聞いたことがある。それが、日本人のストライクゾーンだったということかな？

(横浜教室・ボランティア)

私のこれからのこと

平山 綾子



来年には還暦を迎える歳になりました。還暦といつても我々の親の世代と違い、今は長寿の時代で皆まだまだ元気です。かく言う私もまだまだ元気なつもりです。これから先の10年間の生き方、過ご

し方がとても大事なことを思われます。

長年主婦として背負ってきたものが全部とはいきませんが、筆笈位下ろせるようになりました。自由になる時間が増えたのですから、出来れば楽しく過ごしたい。待っていても誰も楽しいことを運んで来てはくれません。そこで自分に言ってきたせました。少し積極的に、億劫がらずに世の中に出ていこう。誰かと一緒になくても一人で行動できるようにと。

それに最近は何の功でしょうか、てれくさくってとか恥ずかしいという気持ちの薄らいで、臆せず他人と接することができるようになりました。これってどなたかがおっしゃっていた“老人力”と言うのでしょうか。

年をとるというのも悪いことばかりではなさそうです。気持ちが解放されて生き方が楽になってきました。楽しい老後を目指して前へ前へと少し自分に発破をかけていきます。

(横浜教室・ボランティア)

日本の秋

野田 スカンヤ

日本の四季は春、夏、秋、冬それぞれ違う美しさを持っていると思います。春の桜、夏の花火、秋の紅葉、冬の雪景色などです。

私は日本の秋に興味があります。祖国の



タイでは一年のほとんどが暑く、日本でいう春と夏だけが続きます。このため、日本の鮮やかな紅葉にあこがれるのです。

初めて写真で紅葉を見たとき、日本人がうらやましいなあと思いました。なぜなら、私の国には『紅葉』にあたる言葉がありません。タイでは日本のような美しい紅葉を見られるところはほとんどありません。タイでは10月—1月までの肌寒くなる季節に、葉の色が変わりますが、すぐに落ちて新しい葉になって、花が咲く季節が始まるからです。

日本の紅葉の季節は、葉が鮮やかな赤や黄色になって、美しい景色をみせるところがたくさんあります。また、温泉にはいりながら紅葉を見ることができる場所もたくさんあります。ですが実際には、私はまだ感動するような紅葉をこの目で見たことがありません。いつもタイミングが悪くて、見に行くのは紅葉の始まりだったり、終わりだったりします。

また、名所といわれているところに行くと、まだ紅葉の始まりにもかかわらず、大変混雑して、ゆっくり見ることができません。これが、

もし紅葉の一番きれいなときにでかけたらどうなるんだろう??と考えると、行く気がしなくなってしまうのです。

最近ではインターネットでも紅葉を見られるホームページが多く、混雑がきれいな私にはとても便利です。

混雑を覚悟しても、私が是非一度行ってみたいのは秋の京都です。日本の歴史的街並みと、葉の変色とのコントラストが、昼は青空に映え、夜は夜空を焦がす炎のような一味違った風情が楽しめると思います。赤く美しい京都の紅葉を一度見てみたい。

でも、やっぱり、近所の公園で落ち着いて見る紅葉が私には一番あっているのかもしれない。(横浜教室・学習者)

3月のクリスマスプレゼント

白阪 靖人

週1時間半英語のお付き合いをしている中2の彼は、補習をしなくても教科書で大体理解できるので、教科書にある表現を使って身の回りのことを文章にしたりしています。音楽の話題になったとき、「どんなジャンルが好き?」、「ヒップ ホップ」、「ホップってどんな意味かな?」、「・・・」、「ジャズだとこ



んな表現もあるよ」、「先生、ジャズ好き?」というふうにな線し、しまいにはCDを交換することになりました。



高校受験が視野に入ってくるまでは、子供と私の世代間、それも大きく隔たった世代間の交流を楽しむことができますが、受験生の補習になると様相が一変します。

いま一緒に数学を勉強している女子は、来日して間もない頃に見せた戸惑いが急速に薄れ、新しい環境の中にも自分の居場所を随分広げてきていますが、同時に、入試の壁が日に日に高く感じられているようです。月ごとに目標をたて、自分から進んで予習や復習をきちんとやってきました。問題の解が見つからずイラついているようなので、ヒントを出そうとすると手で制止されることがあります。こんな時、強い意志を感じておおいに満足したものです。クリスマスが来ると、もう目前に迫って時間との競争になります。

クリスマスにはほんの小さなプレゼントでかまいません。その代わり、3月には朗報の大きなプレゼントを下さい。そうしたらピカピカの高校生です。ガッツポーズをし、両手を挙げて何度も飛び跳ねるでしょう。この子にはその資格があると思います。応援する者からの願いです。04.12.11

(本郷台教室・ボランティア)

バンコク再訪

高橋 なつ子



今秋、9年ぶりでバンコクのドンムアン空港に降り立った。夫の赴任に伴い5年簡暮らした懐かしい街である。

深夜の到着にもかかわらず空港は以前と変わらぬ賑わいを見せていたが、名前を書いたプレートを掲げた出迎えの人達もリムジンタクシーの勧誘をする人達も独特のうさんくささが抜け、スマートさとそっけなさを身につけたようであった。隙をみせぬよう身構える必要はなくなったが、何か少し物足りない。

9年前、母危篤の報に震えながらこの空港を後にしたが、つらい思い出が9年の歳月の間にかすかに痛みを伴う淡い思い出に変わり、今回のタイ行きを決断となった。

友人の車で街中へ向かう。高速道路を流れるように走る。渋滞がないのは深夜のためか。飛び交う街が整然と美しく見えるのは夜の闇のせいかな。

翌朝、ホテルの前に広がる景色に驚いた。わたしの帰国後何年かして開通したBTS(スカイトレイン)が街の景観を一変させていた。道路の上に並行して通っているBTSは線路に沿って長い遊歩道が続き、清潔で美しい。警察が厳重に取り締まっているので物乞い

をする人もいないし、のら犬もいない。また開通したばかりの地下鉄にも目を見張った。チャオプラヤ川の三角州に開けたバンコクでは地下鉄建設は不可能と聞いていたのだが…。滞在中、BTSの端から端まで乗り心地を試し、目的地を定めずにふらりと地下鉄にも乗り込んでみた。バンコクの新しい顔は申し分なく、この国が確実に新しい成長段階に入ったことを物語っていた。

だが、当然新しい顔ばかりではない。BTSや地下鉄ができたにもかかわらず相変わらずひどい交通渋滞。暑さと独特な臭いでむせ返るような市場。積み上げられた熟帯の菓物。ドリアン、ジャックフルーツ、ソムオー、ランプータン。入り組んだ路地。これ以上汚くなりやうのないやつれた野良犬。物乞いする人々。乗り心地は悪いがなんだか楽しいトウクトウ。人懐っこいやさしい笑顔。近代的な街中でさえゆるやかに流れる時間。手の平を指で舐めさせる優雅な挨拶。ふと、1992年に起きた政変を思い出す。携帯電話を手にした中産階級による革命とも言われた。クーデターによってできた軍事政権に抗議する群衆と軍の衝突で多くの人が亡くなり、暴徒は日本人学校のバス通学路へも押し寄せ沈静化するまで休校となった。

どう收拾をつけるのか



と心配になったころ、スチンダ将軍と民主化運動家チャムロンがプミポン国王に呼ばれ、国王の仲裁で事態はあっけなく収束した。国王の前にひれ伏す二人。後々文藝春秋に載せられたその時の国王の叡智溢れる言葉とその説得力は圧巻であった。軍の中でほんの数十分の間に考えられたということだが。タイの人々の余裕はこの国王への深い信頼から来るものなのかもしれない。

確かにこの国で暮らした5年の歳月。文化の違いに切なさを感じたりその面白さに心躍らせたりしながら、違う土壌に根を張ろうと一生懸命だった5年間。タイ語を学び、タイ文字も習い、できる範囲で仕事もし、社会との関わりを一生懸命に模索した5年間。仕事を諦め夫の任地に同行する妻は自分の人生を生きていると言えるのだろうかとの割り切れない思いは夫の最初の海外赴任地ロサンゼルスに住むことになった時からずっと続いている。

わたしが微力ながらユッカの会のお手伝いをさせてもらうことになったのも、そういう思いからであろうか。夫の日本赴任に同行してやって来た、わたしの娘と同年代の若い生徒達は自分の国の文化を目を輝かせて語り、日本文化に敬意と興味を崇し、日本社会との関わりを持ちたいという意欲に溢れている。

彼女達がいい形で日本社会との接点を持つるように、日本を去る日が来ても移植に充分耐えうる程自分を肥やすことができるように、と祈っている。

奇しくも、バンコクで食事を共にした、1才の娘を連れて若い日本人夫婦は、仕事を辞め夫の任地に付いてきてくれた妻の能力の生かし方を考えバックアップ体制を整える時期がきているのではないかと話していた。その真剣な表情が強く印象に残っている。主役としての幸せをのみ追求してきた日本の若い世代も新しい着地点を探しているのかもしれない。

その時々苦楽を人生に織り込みながら柔軟に遅く生きる来訪者達をこころから応援している。

(戸塚教室・ボランティア)

日本の教育とは、中国の教育とは

顧 秀平



6年前、日本に勤めている主人と一緒に暮らすために、私は娘を連れて、日本にきました。その時、娘は小学校1年生で、日本語がまったく分かりませんでした。私も日本語がよく話せなかったので、

生活の中で、いろいろな不便がありました。やっと日本での生活が落ち着いたころには、娘も小学校3年生になりました。私は娘の教育にも熱心になってきました。えっ？日本の教育はこんなの？！教科書の内容も少ないし、簡単だし、宿題も余り出ない、テストもしない、先生もやさしすぎる、それに、「社会見学」とか「体験学習」などの活動も多すぎる。これは日本の「ゆとり教育」と言われています。こうなると、子供の学力は大丈夫かと心配になりました。

また、1年が経ち、娘の日本語もかなりうまくなりましたが、学力が低下、勉強の意欲が余りなく、このままだと、子供の将来はどのようになるだろうか？ほんとに大丈夫？私はまた日本の「ゆとり教育」を疑いました。そして、不安になりました。

私の学生時代はそれと全然違いました。その頃、中国では、子供が大学に入るのは両親みんなの希望です。しかし、大学受験は非常に厳しいことであるため、4%ぐらいの人しか合格できませんでした。それだから、宿題も、テストもいっぱいあって、競争も激しく、遊んでいたら、ついていけませんでした。学生達は大学に進学するために、毎日必死でがんばっ



たものです。

私の中学、高校時代はこういう風に過ごしてきました。そして、大学に入ってから、自分では10年間、勉強だけして、他のことは殆どできない状況でした。何かもの足りないのではないかと思っていました。それで、その時、中国の教育は「高分低能」と言われました。

「高分低能」とは成績の点数が高く、能力が低いことです。現在の中国の教育は改革され、「素質教育」を提唱しました。つまり子供に社会的能力、学力両方を持たせようしました。従って、子供たちは昔より、もっと大変になってしまいました。

中国の教育は厳しいとしても、学力が高く、これに比べて、日本の教育はゆとりがあり過ぎるから、子供の向上心が出ないと思います。やはり日本の教育は私には認められません。娘の将来のために、彼女を中国へ帰らせることにしました。

中国の小学校に通っていた娘の学力は少し劣っていても、表現力、リーダーシップ、創造力などは、中国の小学生より優れていて、先生に誉められました。それは日本の教育に恵まれたからだと思います。娘は中国に帰って1年半、学力を上げ、勉強する意欲も出ました。しかし、別れる時の娘の涙を思い出すと、私の胸が痛み、「勉強だけが教育ではないか？あの子の一生を左右

するのは教育だけではないか？」と何回も何回も自分に問い掛けました。家族はやはり一緒に生活するのが一番だと考え、1年後、娘はまた日本に帰ってきました。

これらのことによって、私は中国の教育と日本の教育について、十分理解することができました。日本の教育は多少優しすぎるところがあり、おおらかで社会的能力などを身に付けられ、中国の教育は厳しいけれど、基礎能力をしっかりとつけさせます。もしこの二つが結合すれば、一番いいのではないのでしょうか？ このような考えから、私は娘を勉強の雰囲気や中国のような塾に通わせています。これからは娘には「日本の教育」と「中国の教育」の間で胸を張って逞しく成長していくことを心から祈っています。

(戸塚教室・学習者)

こんにちは

梶 進三

こんにちは。私はニイと申します。去年9月に日本へ来たことがある。でも日本語が全然わからないので、すぐ国へ帰った。その後私は日本語をもっとまじめに勉強するべきと思った。その後翌年4月に再帰した。

今現在日本に7ヶ月ぐらいいる。今度は前より日本語が進歩した。日本でアルバイトが

出来たし、自分で電車に乗れるし、わたしの気持ちとはとても嬉しい。

日本へ来てからいままでの間にいろいろなことであって、いろいろな感想を持った。困ったこともあるし、おもしろかったこともある。それで、日本で生活するのは私を成長させている。

私は日本にいて、生活が便利で、環境が良いので気に入っている。私もずっと日本に生活しようと思い始めた。しかし、今年10月に新潟県の地震を見てから、私の考え方が清えた！

私の故郷は中国の東北地方、地震と台風は話に聞くだけ、経験がありません。ですから、強い台風と大地震について初めてこわいと感じました。台風が吹き出したときはビルが揺れるように感じた。地震が起きたときもビルがもつとゆれた。現在私はもうなれた。時々地震が起きるのはあまりこわくない。

ニュースによるといま日本の火山が噴火している。いくら悪いことがおきても日本人々は生活について希望を持っているので、日本は生活はもつと良くなると思います。

今、中国の経済は素晴らしいです。近い将来中国も日本と同じ水準の生活になると私は思います。 (横浜教室・学習者)



夢のような幼い話

蓬坂 喜志子



私が6、7才の頃、父が進駐筆に勤めていたので、母に連れられて父のお弁当を持って行った事があります。

その時、母は私にそのお弁当を持って行かせました。間の所には聳え立つような大きな身体の憲兵が両手を後に廻し、足を開いて微動だにしないで立っていました。私は「ラジオショップの平野茂お願いします」と母に言われた通りに言いました。

真下から見あげると高い鼻の鼻の穴だけ大きく見えました。その向こうはまっ青な空が見えました。憲兵は腰を折って私の方に顔を近づけて来ました。色が白くて、まっ青な空の色と同じ眼。今まで見た事もない顔です。私はベソをかきながらもう一度「ラジオショップの平野茂お願いします」と小さな声で言うと、大きな憲兵さんは私の手をとって中へ連れて行きました。すると15、6人のアメリカ兵が私をとり囲んで顔の上の方でわからない言葉で話しています。本当に長い時間、そこに居たように思われます。茫然としていると、父が私を見つけてくれました。

この頃から外国人は宇宙人の様に思いました。言葉がわからないと言うことは、相手を理解出来ない、何をどうしようとしているのだ

ろう、不妄で一杯でした。

あの時言葉が通じていれば、きっと「おじさんの眼はどうしてそんなに青いの」と聞いた事でしょう。きっと憲兵さんも、その幼い質問にやさしく答えてくれた事でしょう。

世界中が同じ言葉であれば、もっと仲良く理解しあえて、トラブルも減る事でしょう。夢のような幼稚な話ですね。

でも私達は今も言葉の壁で苦勞しています。これは本当に“バカな壁”ですね。

(戸塚教室・ボランティア)

大雁塔北広場の紹介と私の感想

員 琳蓉



2003年末にアジアで一番

大きい広場が建てられました。中国の西安にあり、大雁塔北広場と呼ばれています。この広場は北は雁塔路の南端から始まり、南は大慈恩寺の北に接し、東は広場東路、西は広場西路に至り、東西の幅は218m、南北の長さは364mで、100亩余り(1亩=6.667アール=700㎡)を占めていて、建築面積は約11万㎡、総投資額は約5億元です。広場全体は噴水の景観、文化広場、庭園の景観、文化回廊、旅行商業貿易の施設などで構成されています。また広場全体は大雁

塔の中心を軸として三等分され、中央は水の景観を主とし、左右両側は「唐詩園林区」、「法相花壇区」、「禪修樹林区」などの景観地区に分かれていて、広場の南端には「流れ落ちる滝の景観」「水をテーマにした景観」、「景色を眺めるバルコニー」などが設置されています。

大雁塔北広場が作りだした新記録は次のようなものです。アジア最大の噴水広場と最大の水の景観広場は、水面の面積は2万平方mに達します。また彫像、塑像の規模がアジア最大の広場でもあり、広場の中には2つの100mの群像があり、8組の大型人物の彫刻と塑像が作られ、地面には40のレリーフが彫られています。世界で最も豪華な緑化された手を触れないで用がたせるお手洗いがあり、とても清潔に保たれていること、世界でベンチが最も多いこと、世界最長のスペクトル(光の帯)、世界初の河川から直接水を引く設備、最大規模の音響の組み合わせ(コンビネーション)など多岐にわたります。



私の感想

私はこの広場へ2回行って深く感動しました。全ての施設と建物が唐時代のものをまねて造られました。一番景色が美しいのは音楽の噴水で、普通の噴水と違いそれぞれ特徴を持っています。規模が大きく音楽にしたがって高く、低く上下

し、滝から落ちる水は北へまっすぐ伸びて行きます。実は噴水が止まった時は階段式の人工の湖になります。湖とはいえ自然の湖よりはちょっと浅いです。また夜になるとカラフルな照明的な下でもっと美しくなります。

広場の地面には書道の漢字が刻まれ、字が大きいので毎日のように書道界のめいしがここに来て、鑑賞と研究をします。広場の東側には李白、杜甫などたくさんの唐時代の有名な彫像があり、それぞれが自分の風格を持っていて、人々に心から敬慕されています。彫像から更に東側、南北の道の両側に、白い灯の柱が北から南まで並んでいて、各灯には4つの面があり、面毎に唐詩が書かれています。もしこの道をはじめから終わりまで歩けば、唐時代の有名な詩が一度に読むことができます。

新しい広場が造られたことにより、これらの唐時代の名所は大雁塔と春曉園を結びました。春曉園は昔の皇室の庭園で、この公園の一角は日本人と一緒に造られました。桜の木が植えられ、日本式の灯台があります。広場は唐時代の文化と歴史の雰囲気濃厚で、昔の輝かしかつた氣勢を継承していて、西安の古都としての特徴を十分表しています。現在、この広場は大人も子供も楽しめる散歩と遊びの良い遊園地になっています。

あらためて 最初の

一歩

中 和子

15周年を様々な視点から
考えた2003年、それを一つの
区切りとし、2004年の活動
が始まりました。地域教室、



補習教室など継続した活動の中からの
気付きの確かさを土台に、あらためて第一歩を
踏み出した感がありました。

最近では外国人の定住化が進み、外国人
の存在が特別なものではなくなってきたとい
われています。

外国人と日本人という図式ではなく、お互
いが一人の個人として接している中で、もっと
身近なところで、様々な課題が解決できるの
ではないかと考え、ごく日常的な営みの中
で、人が出会い、学び合う場の提供を考え
た一年でした。

誰もが安心して参加できる「居心地の良い
学び合いの場」、その中から「様々な異文化
を持つ他者への日常的な理解が生まれてく
る」ということをユッカの会の活動の中で多く
のボランティアが気付かされているのではない
でしょうか。

誰もが当たり前前の存在として、地域の中で
生き生きと暮らすために必要なこと…帰国者
の方々と考えた一年でした。そんな中、2回
の手芸教室には講師として地域の方々(はな

みずきの会)が協力していただきました。

また、ユッカの会の活動が地域の方々に少しづつ関心を持たれてきたことを嬉しく思った一年でもありました。

例えば生涯学習支援センター関係者の方々にユッカの会の活動を紹介する機会をいただいたり、区の地域福祉計画策定委員にユッカの会が外国人支援団体として声をかけていただいたりしました。

日本語教室関係では文化庁出版の「地域日本語学習支援の充実 ～ともに育む地域社会の構築に向けて～」にユッカの会の(マンツーマン+グループ学習の学修形態)日本語教室が紹介されました。

地域に多様な接点を持つという歩みの一歩が具体的に始まったように感じています。

昨年のお餃子の会頃から「養父母へ恩返しをしたい」という声があがっていました。今年度の餃子の会ではそのことが反省会でも取り上げられ、『感恩会(案)』というグループを作って、資金を集めたいというところまでお話が進みました。市民活動フェア、アースフェスタ、地域のフェスティバルなどに餃子の店を出店し、資金集めをしようというのです。

また、地域教室にはご家族が介護保険を使っている方もいます。ヘルパーさんとのやり取りがスムーズに行われるためには、利用者である私たち皆が介護保険の勉強をした

らどうだろうか。また、この中からヘルパーさんの資格を取る方はいないだろうか。そうなればお互い安心ができるのでは・・・60歳前後で流暢な日本語を話す方々とそんな話題も出てきています。

中越地震の被災者に義捐金を送ろうという提案もあります。

地域教室の週1回3時間という時間は様々な生活の知恵が話され、具体化する場になってきました。

ではボランティアは？ 日常活動が県域で随時活動という状況では、ボランティア同士が出会う機会が少ないといわれてきました。今年度はボランティア個人情報保護についての勉強会、研修生(崔明華さん、瀋陽在住の日本語教師)を迎えての勉強会、国会議事堂見学、横浜でのボランティアミーティングなど、ボランティアの勉強会、交流活動も増えました。また、ホームページ、EメールなどITを利用し、会員への情報提供を試みています。これらについてのご意見もぜひお寄せいただきたく思います。

台風23号接近の最中「明日の日本語教室はありません」これだけの情報を日本語で伝えることの難しさ・・・情報提供の現実を知りました。災害時、言葉の不自由な方々への情報提供については、まずユッカの会の中で情報提供がスムーズに行われる

ために必要なシステムづくりを当事者の方と一緒にはじめなければと思いました。

ユッカの会の活動は参加者皆で作上げる…この姿勢を忘れないで2005年も実りある活動を続けていきたいと願っています。

それでは皆様おそろいでよいお年をお迎えてください。(ユッカの会事務局 長)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

平成16年の活動報告



● 教室活動

◇ 補習教室 随時実施 通年 主にマンツーマン形式

- ・ボランティアのための勉強会
- ・集中補習教室 夏・冬・春の補習教室(県民センター)
- ・多文化ふれあいキャンプ 千葉県鴨川青年の家

◇ 日本語教室 随時実施 通年 主にマンツーマン形式

- ・日本語勉強会 実施曜日: 第3土曜日

◇ パソコン教室 実施曜日: 金・土

◇ 地域教室 帰国者を中心に日本語学習と手芸教室、ハイキング、料理教室などの交流活動を行う

- グループ形式 実施曜日: 木・金 随時

● 交流会活動

- 1月: 成人を祝う会(県民センター)
- 2月: 餃子の会(アースプラザ)

家庭料理の会 以後4回実施(女性フォーラム)

3月: 市民活動フェア『日本語で話す会』(県民センター)

卒業を祝う会(県民センター)

4月: お花見(柏尾川岸・女性フォーラム)

5月: バーベキュー会(子ども自然公園)

6月: フリートーキング・手芸の会(ビーズ手芸) 県民センター

クラフトテープで籠づくり(女性フォーラム: はなみずきの会協力)

7月: 料理教室(戸塚) 女性フォーラム 地域教室バス旅行(小涌園)

8月: 浴衣を着る会(女性フォーラム)

9月: クラフトテープで籠づくり(県民センター: はなみずきの会協力)

10月: みかん狩りバスハイク

11月: 料理教室(女性フォーラム)

12月: クリスマス交流会(戸塚サンライフ) など

● ボランティア自主研究活動

- ・個人情報について勉強会 7月
- ・国会議事堂見学 9月
- ・県招致の研修生を囲んで勉強会 10月
- ・戸塚教室、横浜教室ボランティアミーティング 2月、11月

●地域への参加・他団体との交流・その他

- ・帰国者自立アドバイザー研修会(地域教室活動紹介)参加 2月
- ・サポートセンター掃除参加 3月、7月、12月
- ・サポートセンター8周年記念事業参加 4月

・戸
塚
園

- ・際交流会参加 7月
- ・「ニューカマーの子どもと高校進学」・「横浜市・川崎市の学校制度」講座 他団体と共催で 2月、9月、12月
- ・横浜市立港 中学、上飯田 中学卒業式、港 中学校学校開放行事参加
- ・かながわ県民活動サポートセンター協議会参加
- ・ボランティアセンター主催「利用者連絡会」参加
- ・市民活動フェア2004、アースフェスタ2004参加
- ・研修会「外国人児童生徒の育ちを支える仕組みづくり」など外国籍児童生徒の

数の玉手箱

松元 秀弥

「数を笑うものは数に泣く」と言われていてもおかしくない程、殆どの生活は数字で表されるものに翻弄されながら



母語保持についての研修会参加 1月、2月、11月

- ・「地域日本語教育シンポジウム」(文化庁)参加 8月
- ・「地域日本語教育支援コーディネーター

特 別 寄 稿

研修・三重県、和歌山県」/「神奈川県生涯学習支援研修」などへ講師派遣

- ・日本福祉教育・ボランティア学習学会かながわ大会後援 11月
- ・お茶の水女子大調査協力 8月
- ・夏季開発実務プログラム協力 8月
- ・かながわ県民活動サポートセンター平成16年度ネットワーク事業「災害時要援護者救援のあり方」企画参加 11月

●その他

- ・助成金申請 かながわともしび基金など
- ・区生涯学習支援センター利用者登録
- ・ボランティア保険申請:2件
- ・通信No.21、22号発行

過ぎてゆくように見えます。そして、数字は無限ですから、すべての善悪の可能性は無限に広がります。したがって、この得体の知れない数字を実感をもって受け止めることができるようになれば、目の前はパッと明るくなり、世界は自分のためにあると初め

て感ずることができ、禍は転じて福となつて、次のような利益が得られるものと確信しています。

- (1) 数量に対する理解が深まり、どんどん利口になる。
- (2) 知識はますます豊富になり、偏差値が上がる。
- (3) 金持ちになれる。
- (4) 時間がつぶせる。
- (5) 知らぬ間に人格が向上する。

我々の日常生活は無意識と有意識の差はあっても、朝から晩まで数字に取り囲まれて生活しています。朝起きると次のような数字が同時に襲ってきます。

今、何時、何月何日、昨夜のヤキトリの本数、血圧、指の数、為替レート、肥満度、自治会旅行積立金、血糖値、原油価格、骨粗鬆症骨密度、日経平均株価、コレステロール値、住民票コード、夜半のトイレ訪問回数、金庫のダイヤル番号 etc, etc

これらが意識の上に現れ、浮かんでは消え、消えては浮かぶ一日が始まるのです。同じ数字でも、それ自身記号として意味のあるものと、何かと比較して実感を伴うものに分かれれます。血糖値の絶対値、昨日と今日との違いなど、一般的にもデータとして広く知られている標準値と、自分自身の標準値に対する変動値を見て一喜一憂させられてい

ます。簡題は、あまりなじみのないもの…数字が表す単位、桁数について多少でも実感が得られれば少しは世間様に顔向けができるのかもしれませんが、それには、やはり比較するものがないとどうしても(認識する)感ずることはできません。1億円の政治献金的闇現金が発覚したとか、銀行不良債権2千億円の計上とか、百万、千万、1億…1兆など、庶民には1億も100億もあまり変わりません。汚職か詐欺でもいいから、一時的に所収または着服の体験をしないと実感はわからないものと思われれます。

そこで感情に訴え、感動するにはやはり比較できるものをもって来るしかありません。

1. 百万

残留量(濃度)を示す極微量単位として ppm(parts per million)、百万分の幾つに当たるかを示す。これを具体的なものに比較すると次の様なたとえがあります。

- | | |
|----|---|
| 重量 | 1トン積み的小型トラックの中の1g |
| 容積 | 1m ³ (普通はこの3分の1位です)
の家族用風呂の中の1ml(1cc) |
| 面積 | 甲子園球場の中の1枚のハガキ |
| 時間 | 12日間のうちの1秒 |
| 長さ | 東京～熱海間のどこか10cm |

要するに、桁外れの極微量成分を表すのに用いられるわけです。身近なものとして、環境汚染物質と食品衛生があります。最

最終的に両者は食物連鎖により廻りめぐって人間が食品として食べることになります。したがって、利用される物質、例えば農薬、食品添加物等、影響のでない最小におさえられています。これに使われる単位は殆ど ppm です。天然には毒をもった動植物が幾つもあります。毒蛇や毒クラゲ、毒キノコ、とりかぶなど、特に食料に使われるものに被害がでます。

「フグ」の猛毒は強烈で、青酸カリの数百倍と言われており、致死量は5~6ppm/kgという微量です。毒の種類はコブラと同じ神経毒です。川柳に「ふぐ汁を食わぬたわげに食うたわげ」（たわげ＝ばかもの）という荷とも無責任な句がありますが、命をかけても思わせる程美味ということなのでしょうか。

2. 億

百万の百倍。今や世の中は億の単位で満ち満ちています。世界の人口は63億7千万人。公金横領、詐欺、闇献金資金洗浄等、皆々億の額が報じられています。一体億とはどんな感じの数でしょうか。1秒に1つずつ数えて1億秒になるにはどの位かかるでしょうか。ゆっくり計算すればわかることですが、ここでひとつ勘と度胸または愛嬌でエイヤツと答えてみて下さい。1週間くらいと答えた人は感性豊かな芸術家肌の人。数ヶ月と答えた人は人格円満、信頼を一身に集め

る人、1年と答えた人は大いなる努力家、政治家タイプの人、またはかなりの悪党。

$$\begin{aligned} \text{1年の秒数} &= 60 \times 60 \times 24 \times 365 \\ &= 3,153 \text{万} 6,000 \text{秒} \\ \text{1億秒の年数} &= 100,000,000 \div 31,536,000 \\ &= 3.1709 \text{年} \text{ (3年2ヶ月)} \end{aligned}$$

正解は3年2ヶ月です。三年寝太郎、石の上にも3年、忘年会を3回もやらないと数え終わらないのです。

3. 兆

最近、兆は至る所でみられるようになりました。△△株式会社が倒産、負債総額は1兆3千億。国の一般会計はもうずいぶん前から「兆」の単位で増え続けています。今年度は予算82兆、うち税金その他46兆(54%)、国債36兆(46%)。人間の細胞はおおよそ1兆個と言われています。

そこで具体的に比較対照するため前項の億と同じく1兆秒とはどの位の感じか意

決して研

$$250 = 2^3 \times 2^3 \times 2^3 \times \dots \times 2^3 \times 2^2$$

16 指数を分けて部分的に掛ける

$$\begin{aligned} 3. &= 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 8 \times 4 \\ &= 4,096 \times 4,096 \times 4,096 \times 4,096 \times 4 \end{aligned}$$

ましよう。そうです、1兆は1億の1万倍ですからです。

歴史上に登場してくる人類の歴史はせいぜい1万年から5千年前ですから、このころスタ

$$\begin{aligned} 2^{50} &> 4,000 \times 4,000 \times 4,000 \times 4,000 \times 4 \\ &= 1,024 \times 10^{15} \text{ (0が15個)} \end{aligned}$$

一トした時計はまだ1兆秒になっていない
 のです。日本列島で見つかった最古の骨
 は沖縄県で発見された「港川人」という約1万
 8千年前のものです。これを更に1万年遡っ
 た時が3万年昔です。本当に驚くべきこと
 です。記録された歴史のすべてがこの時間
 の中に入ってしまうとは何という悲惨なこと
 でしょう。これに驚かなかった人は億につ
 いてよく理解していない幸福な人か、異
 常に肝の据わっている度し難い大人物であ
 りましょう。

4. 折り紙

簡単な折り紙をやります。四角な紙を(新
 聞紙が簡単)二つに折ります。それをまた二
 つに折る。また二つに折る・・・これを50回折
 ると厚さはどの位になるでしょう。新聞紙の
 厚さは1枚0.05mmです。

実際やってみると5~7回折るともうできな
 くなります。したがって、その後は頭の中
 で実行するに $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times \dots \times 2$ と $\times 2$ を50
 回行って(250)紙の厚さに掛ければよい誤
 差です。

電卓を叩けばすぐ出るのでしようけれど、そん
 なに細かい数字を求めても意味がないし、桁
 数もあふれてしまうので、概算値にしましょう。

4,096 → 4,000 に切り捨てます。

紙の厚さは $0.05\text{mm} = 0.005\text{cm}$
 $= 0.00005\text{m} = 0.00000005\text{km}$

折った紙の厚さは $= 0.00000005\text{km}$

$\times 100,000,000,000,000$
 $= 50,000,000\text{km}$ (5千万km)
 月までの距離は38.5万km、往復77万kmだ
 から65往復できる。

太陽までの距離は1.45億kmだから、新聞を
 更に3回折ると往復できる。

皆さんも折鶴にのって宇宙旅行をしてみ
 ては如何ですか。但し、太陽にだけは行かない
 方がよい。多分帰って来られないでしょうから。

5. 米

米とい $T = (7,683 / 142.5) \times 1,000,000$
 $= 53,894,736$ 粒
 ってもア

メロカのことではありません。我々の食料で
 あるあの米です。日本人は米を心から味わ
 い、その微妙な味覚が幸いして、一時米が
 不作で

外国米 $1,000 \times 120,000,000 = 1.2 \times 10^{11}$ 谷
 を 繫 $\text{粒数} = 1.2 \times 10^{11} \times 7,680$
 急輸 $= 9,216 \times 10^{13}$ 粒

入したときなど「こんな不味いものが食える
 かつ！」と断食に突入したほどの純粋な芳
 々ですから、うかつなことは言えません。

したがって、法律に抵触しない、あるいは
 反社会的ではないと思われる内容に終始し
 ました。

客観的な項目として、米粒というやつ、繫
 碗1杯で何粒くらいあるのだろうか？ 米1谷
 は何粒か、体積と重量と粒数の関係はどう

なっているのか。米の品種によってそれぞれ異なるでしょうし、それに玄米から白米に至る精製度、更に無洗米と称して周りを削り落としたものなどあって、いろいろです。

現在、換算の目安に使われている数字は次のようなものです。(但し玄米)

1俵 = 4斗 = 40升 = 400合 = 57kg (玄米)
1合 = 180ml (cc)
1合の重さ = 57kg / 400 = 147.5g

さて粒数ですが、これは昔から定説がなく、自分で数えてみるしか方法はあります。紙の上に広げて失明を覚悟で涙ながらに一粒二粒と数え、一合は7,683粒という数字が得られました。

米1トンの粒数は

日本人の米の消費量を大略1食1合とすると年間1,000合、全国民1億2千万こぞって(生まれたばかりの赤ん坊も)米を食べたとすれば、年間の粒数は

ここで、どこにでもあるものの代表例として水を考えてみます。牛乳瓶1本(1合)の重さは180gです。物質はすべて分子(原子)からできていて、化学の教えるところによれば、水180gの分子の数は 6×10^{24} 個です。

これがすべて米粒だとすると

$$6 \times 10^{24} / 9,216 \times 10^{13} = 6.5 \times 10^{10}$$

650億年分の米粒(即ち米)ということになります。人類が減びてもなお残る、殆ど無限の

量です。牛乳瓶の水を一日見ても飽きることはありません。

6. こだま

遠いところと通信するのに人工衛星を使うことが日常化しています。定まった音声や映像の通信は、地球に対して静止している衛星を空飛ぶ鏡のような使い方をしています。静止衛星はどこに置けばよいかというと、衛星が地球と引き合う引力と衛星の遠心力が釣り合った高さに、いつも向き合っているようにしています。

これは地球の半径、地球の質量、人工衛星の質量、地球自転角速度、万有引力の定数、この5つで求められ、その高さは30,000kmです。

現在、人工衛星を打ち上げる技術は確立されており、申し分ないのですが、どうしても避けられない問題があります。それは、この高度があまりに遠いので信号の応答に遅れを生じ、特に音声にこだま現象がみられ、ちよつと間のぬけた感じが残ることです。

どの位遅れるかというと、信号即ち電波は光、電氣すべて同じで、秒速30万km(地球を7廻り半)の猛スピードですが、静止衛星までの30,000kmは約0.1秒かかります。ここで反射して先方に到達、ここで応答して逆コースを走る。結局 $0.1 \times 4 = 0.4$ 秒かかり、ちよつと間があくこととなります。人間は意

外とせつがちで、この0.4秒の遅れがあると
 いらいらする人がいますが、今のところ解決
 の方法はあります。

7. インフレーション

人工的に数を急激に膨張させてゆくのが
 インフレである。日本も戦後のインフレは相当
 なもので、私策を持ち歩く姿は普通にみら
 れました。

しかし、上には上があるもので、第一次大
 戦直後のドイツの破局的インフレ。1919年
 に4.2マルクだった為替相場は、1923年には
 4兆マルク。価値は1兆分の1にさがった。
 物価は1時間ごとに上がるので、紙幣を背負
 って歩かなければ買えない始末。だが、更
 に上には上があるもので、史上最悪
 のインフレが第二次大戦後のハンガリーを襲
 ったのです。

1931年発行の1ペンゲー金貨の価値が
 1946年には1垓3千京ペンゲー(1京は兆の
 1万倍、1万京が1垓)。何と10垓ペンゲー(1
 の後に0が21個)紙幣が発行されました。こん
 なに沢山0が続くと目がちらちらして、0の
 や二つ間違っても仕方ないでしょう。

余談になりますが、インフレによるカネの価
 値が下がり、物の価値はそのまま留まるわけ
 で、まじめな男と飲んべえの話です。

まじめな男は生活のため汗水たらして働
 きました。インフレはどんどん進み、物価はど

んどん上がる。飲んべえの男はせつせと借
 金をして朝から飲んではな歌をうたって暮ら
 しました。

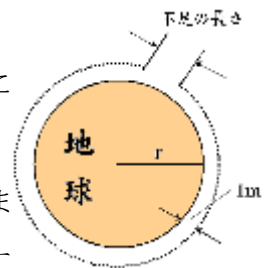
暫くしてみると、まじめな男には何も残り
 ません。飲んべえの男には借金とカラ瓶の
 山が残りました。この山がそれ相当の値段で
 売れ、借金は返し、なまけものが得をしたと
 いうことです。身につまされる話です。

8. クイズ

最後にちょっとした算術の問題を提出し
 ます。御用とお急ぎでない方は考えてくださ
 い。正解者には、あなたが欲しいがっているも
 のが効率よく入手できる素晴らしい情報を
 提供します。

問題：

我々の住むこの地球に
 ロープで鉢巻きをします。
 分かりやすく、赤道としま
 しょう。そして、ロープはす
 べて海拔ゼロメートルとします。このロープを



世界中の

人が一列
 に並んで一
 芥にヨイシ
 ヨともちあげ

参考:	
数の単位(大きい方)	壺・拾・佰・阡・
萬・億・兆・京・垓
数の単位(小さい方)	壺・分・厘・毛・
絲・忽・微・纖・沙・塵 六徳
虚空・清・淨	(10 ⁻²¹)

$$a = \text{不足の長さ} = (r+1) \times 2 \times \pi - r \times 2 \times \pi$$

$$= 2\pi r + 2\pi - 2\pi r = 2\pi$$

$$a = 2 \times 3.14 = 6.28$$

答: 6.28m

ます。赤道に巻いたロープは全体的に広がるから足りなくなります。では、何メートル足りなくなるでしょうか？ 但し、

$r = \text{地球の半径} = 6,378\text{km} = 6,378,000\text{m}$

円周率(π) = 3.14

地球の半径は関係ありません。

この式でみれば判るように、巻き付けた円の大きさには関係なく、すべて6.28m不足になります。地球でも月でも、東京ドーム、サッカーボール、テニスボール、すべて同じです。何とも美感の伴わない不思議な気がします。

数の理解はその使用目的につけられた単位と比較による評価で、具体的に感じられるものになるでしょう。寿命あと10年と言われるのと、3,650日と言われるのではずいぶん感じが違います。

いずれにしても、文明の発展は数値の広がりを意味するものとも言えるので、しっかり腰を据えて受け止めないとひどい目にあうことがあります。呉れ呉れもご用心を。

それでは、新春にあたり皆様の益々のご発展と私の健康を祈願しながらお開きいたします。 (横浜教室・ボランティア)